



活動事例

事例発表団体



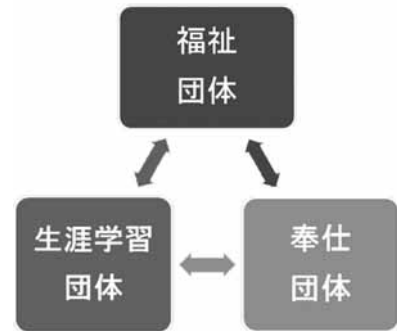
花光会（鹿児島市）

発表者：井上透氏

花光会の井上と申します。よろしくお願いいたします。なお、時間の関係で非常に早口になるかと思いますが、お許しいただきたいと思います。

先ほどの県民生活局長さんのごあいさつにもありましたように、世はまさに高齢化社会、高齢化社会を飛び越えて、超高齢化社会になりつつあるんじゃないかと思います。私たちの花野団地にもその波はひしひしと押し寄せてまいっております。これは大きな命題ではないか。

そこで私たち花光会では、法的には老人クラブでありますけれども、3つの視点から活動に取り組んでおります。福祉団体、生涯学習団体、奉仕団体、この視点から活動に取り組んでおります。そのほんの一部をただいまから紹介させていただきます。



ただ1つ、はっきり明確に言えることは、老人クラブは暇人の年寄りの集まりではないということ。年寄りとか老人クラブといいますとマイナスのイメージ、負のイメージで、「なんだ、老人クラブか。」という風潮は、まだまだ鹿児島県内にも非常に強いと思います。

花光会活動の一部です。カラオケクラブ、みんながとても楽しみにしている福祉バス、もう県内のあちこちに行ってまいりました。全国的に、とりわけ鹿児島県では驚くほど盛んになっているグラウンド・ゴルフ、手づくりによるレクリエーション大会、いずれも非常に皆さん楽しく、しかも元気いっぱい活動しています。



先ほど申し上げましたカラオケクラブの様子です。私たち花光会には、員内クラブ、クラブ内クラブとして、本年度は7クラブがございます。毛筆クラブ、水墨画、唱歌、エコ、園芸、カラオケ、フォークダンス、その年によって一部変わりますが、7ないし10のクラブが盛んに活動しております。

このカラオケクラブに対しまして、今から7～8年ほど前、公民館の近くを通りかかった住民の方から、「朝っぱらからカラオケか、まこて。」という声が間接的に耳に入ってきました。カラオケの良さは医学的にも心理学的にも完全に証明されています。それに則って私たち花光会のカラオケクラブは頑張っているんですけども、まだまだ住民の方々の中に、または広く社会の中に理解してもらっていない面もある。そこで私たちは、もう一度、花光会活動、高齢者の団体活動について見直そうじゃないかという声が出まして、改めて老人クラブ活動を見直すことになりました。

全老連の示している望ましいクラブとしては、「生活を豊かにする楽しい活動」、「地域を豊かにする楽しい活動」、大きくこの2つが掲げられておりますが、私たちのクラブに限らず、どちらかという、「生活を豊かにする楽しい活動」、こちらに比重が置かれているんじゃないか。そこで私たちはこの偏りを是正すべく、花光会独自のクラブ像、あるべき姿を追求しようじゃないかということで、ここ数年取り組んでおります。



そしていろいろな話し合いを進めております。

月例会の講師としましては、見守り活動の先進地の町内会長さん、今年度は鹿児島市の城山北団地の町内会長さんをお呼びいたしました。行政関係の長寿課長さん、社会福祉課長さん、教育委員会の伊敷公民館長さん、花野福祉館長さん、それから消防関係、警察関係、消費生活センター関係、



また本年度からはNPO関係の方をお招きして、いろいろと生涯学習、勉強をしております。

ただ、3つの活動団体をうまくバランスよく進めるのは非常に難しいです。そのバランスを良くするにはどうしたらいいかということで、悩みながら活動を進めておりますが、ただ

1 つ、はっきり目に見えたことは、花光会会員、クラブ会員個々の、個人の面でなく、つまり内向きの考え方でなく、もっと社会に目を向けよう、視野を広げようという外向きの心持ちになってきていることは確かに間違いありません。一歩前進しているんじゃないかと思います。

3年前の総会から掲げています活動の基本方針には、相互扶助の心、お互いに助け合おうと。25年度のスローガンとしては、これを一歩具体化し、「隣の三尺」の心でいこう、と。「隣の三尺」の心です。さらにそれを実際活動として、1つの具体例としては「米五勺運動」を進めています。読んで字のとおり、米5勺です。近ごろ1合とか5勺なんていう言葉は滅多に使いませんが、100名の会員から米5勺を集めまして、NPO関係の方々に提供しております。

今、申し上げました本年度の具体的スローガンの「隣の三尺」の心。もう皆さん、既にご承知かと思います。例えば道路掃除を例にとりますと、我が家の前だけの道路掃除でなく「隣の三尺」、つまり1メートルぐらいまでは掃除する気持ちを持つんじゃないかという精神です。これは単に物理的に掃除という心ではなくて、日常そういう心構えでいたらどうかという事で取り組んでおります。

この精神に基づき、定例会の様子を2つほど紹介いたします。1つは、市の福祉の専門家を呼んでいただき、高齢者の生活保護の現状、それからNPO関係の方を呼んで、食事に困っている人、ホームレス等の現状について学習いたしました。「米五勺運動」を進めるについても、単に米を提供する、寄附する、そういう単純なものじゃなくて、世の中の現状はどうなっているかということを理解した上でのいろいろな提供、寄附でないと、その成果に大きな違いが出てくると思います。なお、私たちは定例会のたびに本年度のスローガンを掲げております。ちょっと文字が小さくて見にくいかと思いますが、その都度その都度掲げております。

以上のような活動を進めながら、現在、完全に定着したものを4つほど挙げます。あとはお手元の資料の1ページにあるので見ていただきたいと思います。

団地内35カ所のごみステーションを、会員100名で持ち場を決めて立ち会い活動をしています。





団地中央にあります広い花園作業、これも1年間4～5回植え替えをやっております。

町内会がやっております青パト、この隊員の6割は花光会会員です。

それから、いずこの地域でもやっております小学校のスクールガード隊、花野小学校の

主に子どもの下校を見守っております。

そのほかいろいろございますが、派手にやる必要はなし、着実にやっていこうということで、今、ご紹介したものを一部挙げました。

私たちの団地には中央緑地帯があります。両方に桜の木が100本近く、真ん中は芝生です。鹿児島市随一の場所じゃないかと思えます。桜の季節になりますと、団地の住民を始め、いろいろな方の憩いの場になっております。この団地中央緑地帯の業者さんの手が届かないところの清掃関係にも、随時取り組んでおります。

老人クラブ活動の基本的性格の中に、非常に大事な1点があります。老人クラブは、地域性を抜きにしては成り立たないんだということです。単に、同好会の延長的な団体であってはならない、1つの目的のみではならない。地域とのつながりを持ちなさいということで、私たちはそこにありますように「地域社会とのつながりを深める花光会」、これで進めております。

時間になりましたという表示がありましたので、後は省かせていただきますが、皆さん、栄養、睡眠、運動のほかにあと2つ、「キョウヨウ」と「キョウイク」が大事だということをご承知でしょうか。「キョウヨウ」とは、あの漢字じゃなくてこういう漢字です。「今日も用がある。」「キョウイク」とは「今日も行くところがある。」。今、笑い声が出ましたけれども、これをまともに考えますと、ひとり住まいの解消かれこれより具体的な行事でございます。

時間オーバーで申し訳ありません。以上で終わります。

ありがとうございました。(拍手)